日本人類学会遺伝分科会　公開講演会（参加無料、事前登録不要）

日時　2018 年 11 月 17 日（土）15:00～17:00

場所　東京大学（東京都文京区本郷 7-3-1）理学部２号館２階 201、第１講義室

講演　飛騨高地住民の DNA 解析より日本人成立過程がわかる

住　斉　　博 士

（スミ　ヒトシ）筑波大学名誉教授、東京大学理学系研究科客員共同研究員

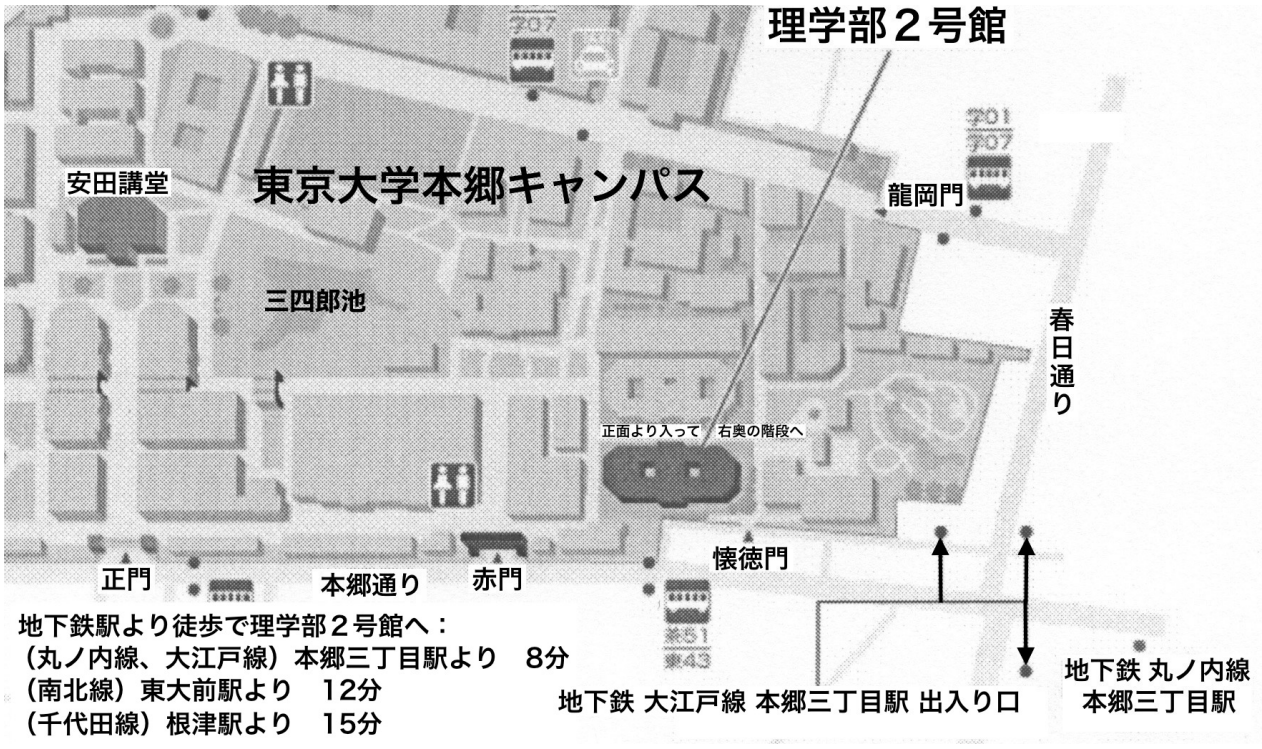
連絡先　日本人類学会遺伝分科会事務局　針原伸二　　harihara@bs.s.u-tokyo.ac.jp

〒113-0033 東京都文京区本郷７丁目３－１

東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻人類学教室　Tel/Fax: 03-5841-4497

講演要旨：縄文人（日本列島の先住民）が狩猟採集生活を送っていたところに、紀元前 10 世紀、渡来系弥生人が大陸から朝鮮半島を経て北九州近辺に入って来た。彼らは大陸の先進文化（金属器、弥生式土器、水田稲作など）を携えていた。戦争の技術と習慣もである。これらにより彼らは次第に縄文人を圧倒するようになり、さらに列島上を東に進出、3 世紀末に畿内で大和朝廷を樹立し、日本人の中枢を形成するようになって行った。日本人は両者の混血により成立した。列島の中央に位置する飛騨高地は山また山の地で、水田稲作に適した平地は至って少ないため、渡来系弥生人子孫の進出は非常に少なかったと考えられる。このことは現代飛騨びとの DNA に記されている筈なので、母親のみから子供（息子でも娘でも）に伝わるミトコンドリア DNA と父親のみから息子だけに伝わる Y 染色体 DNA を調べた。ここで得られた結果を列島全体に援用することができ、日本人成立過程まで明らかになった。

理学部２号館は当日施錠されていますので、 開始時間までにご入館ください。



懇親会（2 号館内、17:10～）にも遠慮なく参加下さい(参加無料、飲食物持ち込み歓迎)